

### 【1. 概要】

- ・ハダニ類防除のため、イチゴ栽培において、天敵を利用した防除体系を実証
- ・講習会や個別巡回等による利用者への支援、薬剤散布ローテーション表を年3回発行
- ・JAはが野いちご部会で約7割の生産者が天敵を利用、防除効果を確認



図1. ハダニ類の天敵 チリカブリダニ

### 【2. 実践内容】

#### (1) 取り組みの背景、経緯

- ・イチゴ栽培では定植時期の前進化等により、年間を通してハダニ類が発生するようになり、薬剤感受性の低下、農薬散布の負担等により、化学農薬のみで安定的に防除を行うことが難しくなってきた
- ・そこで、2007年(平成20年産)からJAはが野いちご部会では、カブリダニ類等天敵を利用した防除体系を実証し、技術確立に取り組んできた(図1)

#### (2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・県、農協、メーカー等の関係者が連携して推進支援体制を構築
- ・巡回等により天敵利用者を支援し、生産者への理解促進を図った
- ・天敵への影響を考慮した薬剤散布ローテーション表を作成

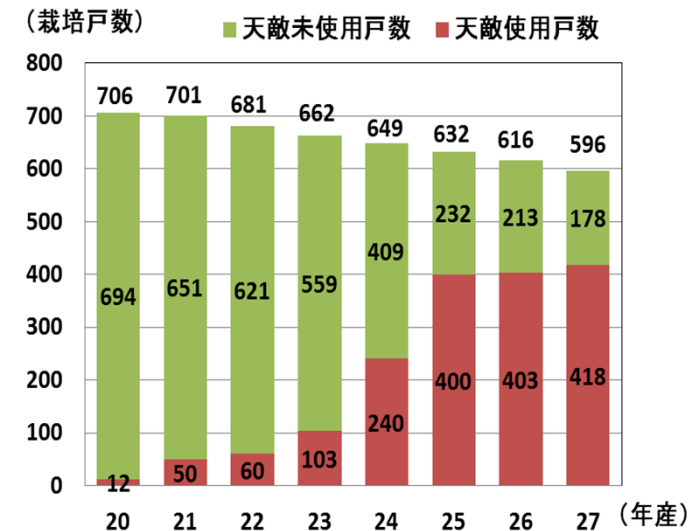


図2. JAはが野いちご部会の天敵利用戸数

### 【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・JAはが野いちご部会生産者の70%(平成27年)が天敵を導入(図2)
- ・殺ダニ剤の散布回数を3割程度削減でき、散布の労力負担が軽減
- ・天敵の利用によって、防除タイミングのシビアな判断や、薬剤抵抗性による薬剤の防除効果への不安等、精神的ストレスが緩和された

【問い合わせ先】

農政部経営技術課環境保全型農業担当  
電話：028-623-2285